

レース報告書

2026 SUPER FORMULA 第4戦・第5戦

鈴鹿サーキット

5月23日(土) 第4戦 天候：曇 (観客動員数：13,000人)

5月24日(日) 第5戦 天候：晴 (観客動員数：16,000人)

第4戦

予選結果

#64：6位

#65：7位

決勝結果

#64：リタイア

#65：リタイア

レポート

第3戦オートポリスから約1か月のインターバルを挟み、第4戦と第5戦が鈴鹿サーキットでの2レース制として開催される。第3戦は悪天候により中止となったため、実質的には開幕戦以来のレースとなる。ここでなんとか上位フィニッシュを果たし、中盤戦に向けて勢いをつけたいところ。

まずは第4戦の公式予選。Q1では佐藤蓮が3番手、イゴール・オオムラ・フラガが4番手につけ、ともにQ2へ進出する。そのQ2では、いつも通り僅差のタイムアタックバトルとなり、最終的に佐藤が6番手、フラガが7番手グリッドを獲得した。

曇り空のもと、決勝レースが 31 周回でスタートする。好スタートを決めた佐藤は、序盤からポジションを上げつつ早めのピットインを前提とした戦略で周回を重ねていく。しかし、いざピットインしようとした周にマシントラブルが発生してしまい、マシンをピットに戻したものの、そのままリタイヤを余儀なくされた。一方、7 番手からスタートしたフラガも、スタート直後から着実にポジションを上げていく。5 番手を走行していた 18 周目にピットインを行ない、タイヤ交換を済ませてコースへ復帰した直後、他車のクラッシュによりセーフティカーが導入される。セーフティカーがピットに戻りレースはリスタートとなったが、その直後にフラガはコースアウトを喫し、無念のリタイヤ。PONOS NAKAJIMA RACING としては、2 台揃ってリタイヤという厳しい結果となった。

コメント

総監督：中嶋 悟

「不安定なコンディションで非常に難しいレースとなり、2 台ともリタイヤという厳しい結果になってしまいました。この結果を真摯に受け止めて気持ちを切り替え、明日のレースでは上位でフィニッシュできるよう、しっかりと準備を進めて臨みたいと思います」

監督：伊沢 拓也

「正直なことを言えば予選ではもっと上を期待してはいましたが、ひとまず 2 台そろって上位を狙えるグリッドを得られたのは良かったです。レースも、佐藤選手は非常にスタートが良かったですし、僕の立場で言うと作戦を決めるのが悩ましい部分もありましたが、結果としては佐藤選手がマシントラブルでリタイヤということになりました。残念でしたが、イゴール選手 1 台になって、いいタイミングでピットに呼べたと思いますし、ピット作業も早く、ポジションも上げてさあこれからというところで、スピンからクラッシュとなってしまいました。2 台とも調子が良かったので、結果を残したかったのですが……。幸いイゴール選手に怪我はなかったのも、あとは僕たちがしっかりとクルマを直すだけです。明日、今日の分を取り返すしかないと考えています」



#64 : 佐藤 蓮

「ピットに入ろうと思っていた周にシケインでシフトダウンができなくなり、ピットに入れませんでした。何とか翌周には戻ることができて、いろいろ調べて直ったかなと思ったのですが、どんどん悪化してシフトダウンができなくなってしまったので、リタイヤという判断になりました。原因としてはシフト系のトラブルだったのですが、マイル管理もしっかりしている中で起きた出来事なので、何とも言えないところがあります。こういう形で勝てる展開、勝てる戦略を採っていたレースを落とすのは非常に悔しい残念です。チームのみんなは本当によくやってくれているし、みんながやれることを精一杯やっている中で、致し方ないトラブルが起きてしまったので、原因を探って同じことが起きないようにしていきたいです」

#65 : イゴール・オオムラ・フラガ

「予選に関しては、トップ 10 には入りましたがまだ完全には対応しきれていないなという印象です。昨日のフリープラクティスでは終盤にアジャストができたのですが、そこから予選になってコンディションが変わったときに、Q1 と Q2 の 2 回の走行だけでいいところには持っていけなかったと感じています。決勝は、途中まではチャンスを活かして少しずつポジションを上げていたので、リスタートでクラッシュしたのは本当に悔しいです。切り替えて、明日の第 5 戦に向かいたいと思います」

第 5 戦

予選結果

64 : 11 位

65 : 10 位

決勝結果



#64 : 9位

#65 : 8位

レポート

第5戦が行なわれる日曜日は、曇り空から時折青空が広がり、汗ばむ陽気となった。まずは公式予選 Q1 の A グループで佐藤がアタックを行ない、トップタイムで Q2 進出を決める。続く B グループでアタックをしたフラガも 3 番手タイムで Q1 を突破する。Q2 ではそれぞれがアタックをしたが、2 台ともにアタックラップ中の走路外走行の判定が下され、当該ラップタイムが抹消となり、佐藤は 11 番手、フラガは 10 番手グリッドから決勝に臨むこととなった。

決勝レースは前日と同じ 14 時 45 分にフォーメーションラップがスタートし、31 周回の戦いの火蓋が切られる。11 番手スタートの佐藤、10 番手スタートのフラガともに、オープニングラップはポジションをキープしたまま 2 周目へと入っていく。その 2 周目、他車のアクシデントによりコース上にパーツが飛び散り、セーフティカーが導入される。5 周目のリスタート後、2 台とも前を走るマシンを 1 台ずつパスしてポジションを上げていく。フラガは 8 周終了時にピットインし、タイヤ交換を済ませてコースへ復帰。激しいバトルが続くなかで着実に順位を上げ、最終的に 8 位でチェッカーを受けた。一方の佐藤はピットインを遅らせる戦略を取り、23 周目にタイヤ交換を実施。残り 8 周で少しずつポジションを取り戻し、9 位フィニッシュで貴重なポイントを持ち帰る結果となった。

コメント

総監督：中嶋 悟

「昨日とは違って、今日は自分たちのリズムで安定したレースができたと感じています。獲得したポイント自体は多くありませんが、このポイントには大きな意味があると思っています。次戦から必ず巻き返します。今大会もたくさんのご声援をありがとうございます



ざいました」

監督：伊沢 拓也

「昨日の佐藤選手の不運やイゴール選手のクラッシュを考えれば、今日はとても良い一日だったと思います。65号車は遅い時間までかかって車両を修復しましたが、予選でしっかりとパフォーマンスを見せてくれて、チームの頑張りを証明してくれました。2台そろって走路外走行の裁定を受けてしまったのは残念ですが、パフォーマンスを確認できたことはポジティブにとらえています。レースでは、準備してきた作戦をしっかりと遂行できて、ポジションも上げることができました。もう少し上を狙いたかった気持ちもありますが、タイヤ交換も2回とも決めることができましたし、久しぶりに2台そろってきちんとレースを戦い、まともに終わることができたのは大きいです。速い遅いだけの話ではなく、ここ最近は流れが崩れかけていたので、今日のレースがその流れを変えるきっかけになってくれればと思います」

#64：佐藤 蓮

「Q1ではグループのトップタイムをマークして、マシンのバランスも非常に良かったのですが、Q2に向けたアジャストを失敗してしまったことで、アンダーステアの状態ですることになり、走路外走行を採られる結果になってしまいました。残念ではありますが、そういうデータを獲ることができたことと切り替えました。決勝では、ピットインのタイミングを引っ張って終盤に追い上げる作戦を取りましたが、ポイント獲得はしっかりと果たせたので良かった半面、やはり序盤の地力が足りていないと感じました。次戦以降に向けて、そこが課題だととらえています」

#65：イゴール・オオムラ・フラガ

「Q1ではトップから0.1秒差の3番手につけ、昨日のクラッシュからここまで戻せたことを考えると、悪くない感触でした。Q2でも暫定3番手タイムを出せており、パフォーマンス自体はあったと思うので、走路外走行の裁定は痛かったです。決勝はスタート直後から前後で激しいバトルが続く展開でしたが、まずは最後まで生き残ってチェッカーを受けることができて良かったです。佐藤選手とは反対の作戦を採りましたが、最終的なポジションはほとんど同じで、上位陣と比べると、まだペースでは後れを取っ





ていると感じています。次の富士大会前にはテストがあるので、そこでしっかりと方向性をつかみにいきたいです」

※次戦は7月18日・19日に富士スピードウェイで開催されます。

